

都市再生整備計画(第3回変更)

つちゆおんせんまちちく
土湯温泉町地区

ふくしまけん ふくしまし
福島県 福島市

平成29年12月

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	福島県	市町村名	福島市	地区名	土湯温泉町地区	面積	21 ha
計画期間	平成 26 年度 ~ 平成 30 年度	交付期間	平成 26 年度 ~ 平成 30 年度				

目標 大目標 : 国立公園の自然環境と古くから栄えた温泉地としての歴史文化、エコ温泉地としての様々な取り組み実績を最大限に活かし、地域一体で築き上げる「こけし育む 健康・湯の里 土湯温泉」を目指す 目標1. 地区で行き交うすべての人が安心と快適を実感でき、楽しく周遊できる歩行空間・街なみの形成 目標2. 様々な取り組み実績を活かす観光や地域活動の拠点づくりによる地区内の賑わいの創出と活力の向上
--

目標設定の根拠 まちづくりの経緯及び現況 <ul style="list-style-type: none"> ・当地区は、福島県の県都福島市(人口約29万人)の奥座敷として、一級河川荒川の川沿いを中心に、古くから温泉地として形成され親しまれてきた。 ・国民保養温泉地にも指定され、平成24年の宿泊客は10.1万人、観光入り込み客は15.5万人であった。 ・東日本大震災により旅館が被災し、3軒が取壊しを余儀なくされ、宿泊客の収容人数も42%減少している。また、原発事故に伴う放射能の影響による風評被害で、観光客の入込数も43%減少しており、地区の活気が失われつつある。 ・地区内には、大震災で被災し廃業を余儀なくされたが取り壊されずそのままにこされている建物、取り壊されたが空地のまま利用されていない土地、また震災後の観光客の減少により廃業や一時休業した店舗もあり、景観上だけでなく、まちの賑わいや活気にも影響がでている。 ・平成9年から地場産業の創出に努め、平成16年には『NPO法人土湯温泉観光まちづくり協議会』を発足させ、住民や観光協会等と協働のもとで、まちづくりの検討を行ってきた。 ・その成果として、道の駅つちゆ・つちゆロードパークの運営や国内産こんにゃく粉を使用した手作りこんにゃく工房などの運営がある。 ・大震災からの復興に向けて「土湯温泉町復興再生協議会」を設立し、行政に支援を求めるとともに、エコ温泉地づくりの推進として、自然エネルギー再生利用の検討会を設置するなど、地域再生に向けた基盤整備が進められている。また、地元住民や大学の研究機関と連携し、バイナリー発電や小水力発電についても検討している。 課題 当地区は、上記のとおり活力が低下しつつある。個々の温泉旅館等の努力とともに地区で支えているひと・もの・文化・歴史等の資源を活用し、一体的にいいきとした地域社会の形成を図り、総合的な魅力を創出していく必要がある。
【歩行者の安全性の向上とまち歩きを楽しめるネットワークの形成】 <ul style="list-style-type: none"> ・地区内の道路は、狭隘な箇所が多く、冬季間には積雪により歩行者の安全性が十分に確保されていないことから、歩行者の安全性の確保がされていない。 ・観光客を呼び込むために、地区内の拠点施設をつなぎ、温泉と一体となったまちの情緒を楽しめる歩行者ネットワークが構築されていない。 ・住商混在、廃業旅館等により景観が阻害されているため、良好な温泉街としての景観の形成が損なわれている。 ・温泉街の中心部を通る県道は、路面の損傷がある。また、温泉街の景観が損なわれている。 【観光客、地域住民の交流促進と賑わい創出のための拠点形成】 <ul style="list-style-type: none"> ・観光客や地域住民の交流を促進するための核としての施設整備がない。 ・当地区を象徴する観光拠点を形成するため、歴史や文化、特産品の紹介や販売等の機能が不足している。 ・狭隘な川沿いに形成された温泉街であるため、駐車場や広場が不足しており、観光客の利便性が確保されていない。 ・当地区にある公衆浴場は、昔ながらの交流の場として親しまれており、地区の賑わい創出には欠かせないものであるが、施設が老朽化し利用者数も減少している。 ・国立公園の自然環境の積極的な保全活用の一環であるエコ温泉地づくりの取り組みが希薄である。 ・快適で魅力ある土湯温泉を地域主導で作りに上げていくための住民の自主的な取組に対する活動支援がない。
将来ビジョン(中長期) <ul style="list-style-type: none"> ・福島市都市マスタープランにおいて、当地区は『観光・レクリエーション拠点』として位置づけられており、温泉資源や歴史資源の有効活用の向上を図ることとされている。

目標を定量化する指標							
指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値		目標値	
					基準年度		目標年度
拠点施設利用者	人/年	公衆浴場「中の湯」の年間施設利用者数	施設利用者数の増加は、地区の交流拡大とにぎわいの創出を表すものである。施設の改修により20%の増加を見込む。	19,436人/年	平成24年度	23,300人/年	平成30年度
歩行者通行量	人/日	計画エリア内の歩行者通行量	歩行者通行量の増加は、回遊性の創出を表すものである。	1,522人/日	平成25年度	1,900人/日	平成30年度
観光入込客数	人/年	計画エリア内の年間観光客入込数	観光客の入込数の増加は、地区の賑わいの創出を表すものである。震災前の入込数を上回る約25%の増加を見込む。	154,890人/年	平成24年度	193,000人/年	平成30年度

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>整備方針1 安心と快適が実感でき歩いて楽しめるネットワークの形成</p> <p>①安心と快適が実感できる歩行空間の形成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光交流センターから遊歩道を散策し温泉街への回遊ルートを形成するため、幅員狭小区間について拡幅改良を行う。 ・温泉観光地として統一感のある景観を確保するため、路面のカラー舗装や街路灯の整備を行う。 ・冬期間の通行者の安全と快適性を確保するため、勾配のある道路区間について融雪装置を整備する。 	<p>■市道見附線道路事業(基幹事業/道路/改良)※事業中止</p> <p>■市道坂ノ上下ノ町線外4路線道路事業(基幹事業/道路)</p> <p>■市道杉ノ下3号線整備事業(基幹事業/高質空間形成施設/緑化施設等)</p> <p>□事業効果分析調査(提案事業/事業活用調査)</p> <p>○(主)土湯温泉線整備事業(関連事業/歩行空間整備事業)</p>
<p>②温泉情緒を活かした街なみの形成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・温泉情緒を活かした修景整備を促進するため、街づくり協定などの建築物のデザインに関するルールづくりを行い、民有地における建築物の意匠・形態等を一体となって整備することにより、和を基調とする統一感のある街なみの形成を図る。 ・温泉街のゆったりとした雰囲気を出出創出することを目指し、解体する空き店舗空間を来訪者がくつろげる空間へ整備する。 ・土湯温泉町の象徴性を示すモニュメントを協議会を中心とする地域住民と協働で検討し整備することで、これまでのイメージを刷新する街のイメージをつくり魅力の向上を図る。 	<p>□街なみ修景整備事業(提案事業/地域創造支援事業)</p> <p>■ポケットパーク等整備事業(基幹事業/地域生活基盤施設)</p> <p>□ポケットパーク等整備事業(足湯施設)(提案事業/地域創造支援事業)</p> <p>■モニュメント整備事業(基幹事業/高質空間形成施設/緑化施設等)</p>
<p>③歩いて楽しめる歩行者ネットワークの形成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土湯温泉町の観光情報や散策コースを来訪者へ分かりやすく紹介し回遊性向上を図るため、既存サインと連携しながら新たな案内板を設置する。 ・歌碑公園に平成25年度建立された「皇太子妃雅子殿下」の歌碑までのアプローチ部を高質化することにより新たな散策ルートの拡大を図る。 	<p>■街なか情報板整備事業(基幹事業/地域生活基盤施設/情報板)</p> <p>■熊野神社周辺整備事業(基幹事業/高質空間形成施設/緑化施設等)</p>
<p>整備方針2 温泉観光地としての魅力向上と賑わい創出</p> <p>①集客拠点施設の形成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・廃業した旅館敷地を活用し、来訪者への観光案内や温泉街を一望できる展望台の整備を行い、地域住民と観光客の交流の場として新たな集客拠点の形成を図る。 ・観光交流センターから直接温泉街へ行く散策回遊ルートを形成するため、温泉街側への昇降施設(エレベーター)を整備する。 ・災害時の一時避難場所や観光客の憩いの場として多目的広場を整備し、コミュニティバスの発着所としても活用する。 ・四季折々のイベント等を開催するなど温泉街の魅力を出出創出するため、既存の公衆浴場を建替え改修し併設して観光交流広場を整備する。 ・既存建物の改修を行い、来訪者への観光案内や休憩所、ものづくり体験施設、多目的スペース、研修施設等の新たな集客施設を整備し、温泉地としての魅力の向上と賑わいの創出を図る。 	<p>■観光交流センター整備事業(基幹事業/高次都市施設/観光交流センター)</p> <p>■多目的広場整備事業(基幹事業/地域生活基盤施設/緑地、広場)※事業中止</p> <p>■観光交流広場整備事業(基幹事業/地域生活基盤施設/緑地、広場)</p> <p>□観光交流広場整備事業(足湯施設)(提案事業/地域創造支援事業)</p> <p>□公衆浴場「中の湯」整備事業(提案事業/地域創造支援事業)</p> <p>■観光交流施設整備事業(基幹事業/既存建造物活用事業)</p> <p>□既存建物改修整備事業(提案事業/地域創造支援事業)</p>
<p>②エコ温泉地づくりの更なる推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エコ温泉地としての更なるアピールのため再生可能エネルギー活用施設の情報発信機能を整備する。 	<p>■温泉熱発電情報板整備事業(基幹事業/地域生活基盤施設/情報板)</p>
<p>③地域主導の賑わい創出</p> <ul style="list-style-type: none"> ・快適で魅力ある土湯温泉を地域主導で作りに上げていくため、まちづくりへの住民の主体的な参画を促すことが不可欠であり、住民の自主的な取組みに対して活動支援を行う。 	<p>□イベント活動支援(提案事業/まちづくり活動推進事業)</p> <p>□まちづくり活動支援(提案事業/まちづくり活動推進事業)</p>

その他

○まちづくり活動の推進

当地区では、東日本大震災及び原発事故からの復興と風評被害を払拭するため、地元各会の代表で構成する「土湯温泉町復興再生協議会」が発足し、この組織に行政がオブザーバーとして加わることにより「土湯温泉町まちづくり協議会」へ移行し、土湯温泉町の復興再生を目指したまちづくり方針の検討を行っている。今後は、協議会内に組織する各分科会において、目標を達成するための具体的手法や官民が連携した協働のまちづくり等について協議するとともに、既存組織(土湯温泉観光協会、NPO法人土湯温泉町観光まちづくり協議会等)との整合を図りながら、土湯温泉町の復興再生を目指していく。

○街なみ形成を誘導する方策

温泉情緒や風情を醸し出す良好な街なみ環境の形成を図るため、交流拠点施設の整備とそれらを結ぶ道路の美装化に合わせ、民有地における建築物の意匠・形態等も一体的な整備を図ることにより、公共空間と民有空間とに統一感のある街なみを形成する。

整備方針については、磐梯朝日国立公園内であることを踏まえて近代和風を基調に全体のコンセプトを協議会を中心に諮りながら景観誘導のあり方を協議し統一感を図っていく。

○歴史・文化の伝承と地域の活性化

直江兼続が建立したとされる興徳寺、聖徳太子をお奉りしている太子堂などの歴史資源の活用や、その昔俳諧の地としても知られ俳諧集「温泉八景」に詠まれている土湯温泉の自然と文化の豊かさを地域活動を通して継承し、より親しみのあるものとして地域の活性化を図っていく。

「日本三大こけし」の一つに数えられている素朴であたたかい「土湯こけし」、更には「土湯こけし祭り」や「土湯温泉・がんぼう！プロジェクト」、「温泉街花いっぱい活動」などの地元イベントを通じて、地元と観光客との交流を深め、街の賑わいと活性化を図っていく。